

【実施区域・面積】

京都府宮津市 4.5ha
上世屋

【生態系タイプ】

里山林、二次草原・草地、畑・果樹園・牧草地、
低層湿原・湿地

【実施区域の状況】

本サイトは、市の西部に位置し、集落や棚田、その周辺にある広葉樹林を主体とする薪炭林との組み合わせが織り成す里山景観が残る小さな集落です。里山ブナ林や湿地、棚田や畦畔など、人の生活や生業と結びついてきた良好な里山生態系が維持されており、里地里山に特徴的な種であるジョウビタキやハッチョウトンボの生息が確認されています。また、棚田では20年以上前から農薬を使わない米作りが行われています。自然とともにある暮らし方を引き継いでいくため、NPO法人里山ネットワーク世屋が活動を展開しており、都会の人や若い人たちが自然体験活動に取り組みながら、里山の自然の保全と継承が進められています。棚田は、伝統的な笹葺き民家を中心に広がっているのが特徴で、無農薬・無化学肥料の高品質な棚田米の栽培、棚田の周りに水を循環させ地温で水を温めてから棚田に入れる「コナワ」という伝統技法や昔ながらの稲木干しなどが行われています。

【目標】

全体的には、里山の湿地、池、草地、林という環境が連続している。そのため、多様な生きものによって複雑な生態系が営まれて、絶滅危惧種も多くの息づいている状況にあります。しかし、現下、里山は、人の活動が加わらなくなった瞬間から、「遷移」の論理に従います。そのため定期的な草地の刈り払いを行い、遷移の競争に弱い生物の成育状況の確認と保護することにより里山に生きる多様な生物の価値の増進を図ります。加えて、シカ、イノシシなどの獣害は、里山生物多様性の根幹を揺るがし、生活者の希望をも萎えさせています。その価値を認めて、意識的な生物多様性の価値を維持する管理を図ることとします。

【主な活動内容】

- ・申請サイト区域に加え、世屋川流域下流から源流全体までの山林・棚田水田部・湿地・草地において希少貴重な動植物やその生育環境についてレンジャー的なモニタリング、これを申請団体の会員や宮津天橋高校フィールド探究部と共同し、冬季を除き月一回を目途に行います。
- ・遷移の競争に弱い生物の成育状況の確認と保護のための措置
- ・シカの食害の対象になる個体、群生の保護

【モニタリング計画】

冬季を除き月1回を目途に申請サイト区域に加え、希少貴重な動植物やその生育環境についてレンジャー的なモニタリングを行います。

- ① マルヤ農林園サイト ミツガシワを始め クサレダマ、ナツエビネの状況を観察、記録します。
- ② 岡ノ前棚田交園 在来タンポポ始めフクジュソウ、ウスバシロチョウの飛翔など観察、記録します。

【実施体制】 申請団体の会員や宮津天橋高校フィールド探究部と共同で実施。



マルヤ農林園上世屋にある湿地



マルヤ農林園上世屋で確認されたミツガシワ

【計画期間】 2025年9月～2030年8月